

富士見市防災環境カルテ
南畑第2町会

位置番号 28

・概況

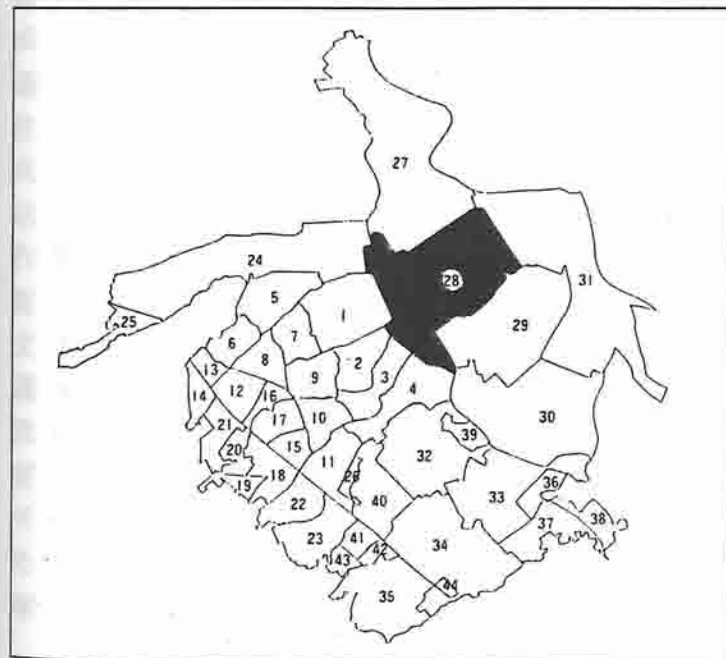
南畑第2町会は、富士見市の北部に位置し、西側は新河岸川に面し、新河岸川に沿った小高いところ（自然堤防）の集落と、東側は荒川に面した水田地帯（氾濫平野）で形成されている。

環境は、田園に囲まれた良好な地域である。町会の南部には、県立富士見高等学校、市立東中学校、南畑小学校、養護学校があり、教育ゾーンに指定されている。南西部には、南畑公民館（勤労文化会館）、考古館と上南畑神社などがある。

水害は、水害履歴から砂川堀都市下水路と灌漑用水路からの溢水のため、水田・畑の冠水、また新河岸川からの越流のため、大字上南畑字尺地から下田にかけての家屋が浸水の被害を受けることが予想される。

地震災害は、この地域が軟弱地盤のため、水田地帯で液状化による被害が予想される。

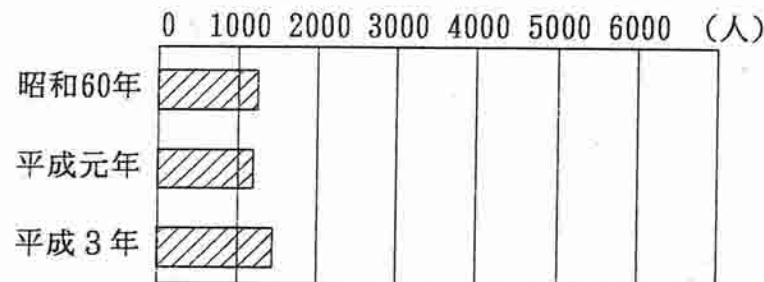
・位置図



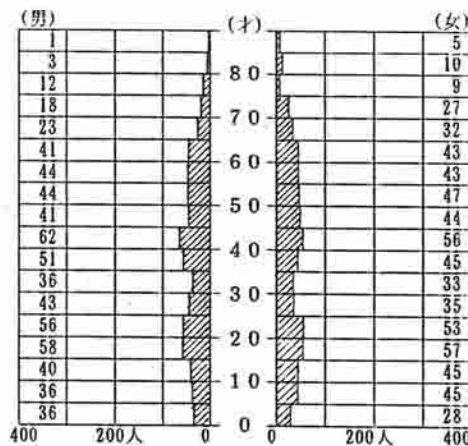
1. 基礎指標

・面積	1,618 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	627人
女	635人
計	1,262人
・人口密度	770.0人/km ²
・寝たきり老人数	1人
・ひとり暮らし老人数	4人
・世帯数	328世帯

・人口推移



・年齢別人口(平成3年)

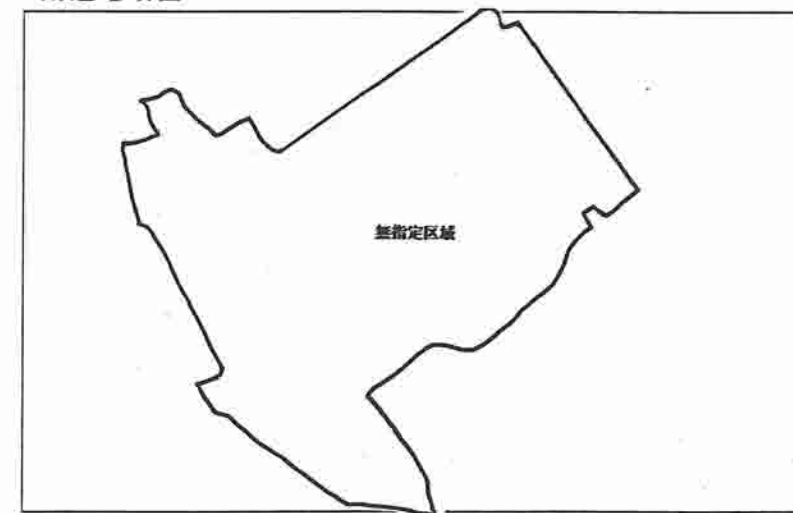


・商住工混在率住居系	88.1%
店舗系	3.4%
工業系	8.5%

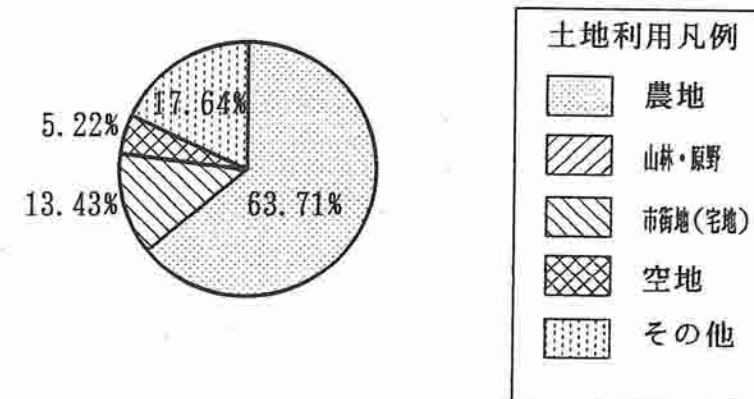
・町会現況図



・用途地域図



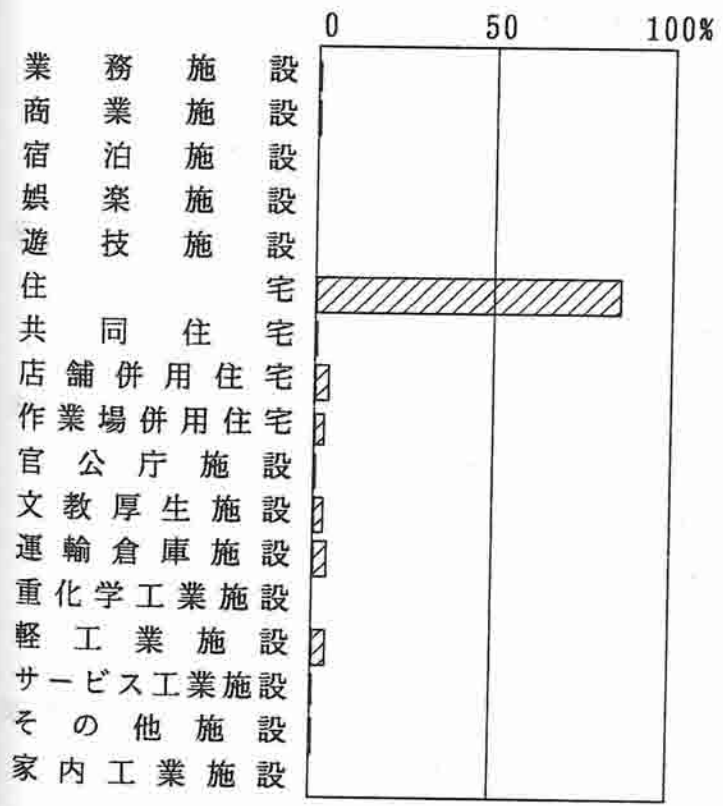
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	700棟
木造建物	626棟
非木造建物	74棟
・建物面積	39,497.66㎡
木造建物	32,303.98㎡
非木造建物	7,193.68㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	84.9%
・木造率	89.4% (626棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	159棟
・同上率	25.4%
・建物階層別現況 (木造建物)	
1階	391棟 62.5%
2階以上	235棟 37.5%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	68本	42.1本/㎢
・幹線道路率	5本	3.1本/㎢
・公共空地面積	85,035.2㎡	
・公共空地率	5.3%	
・1人あたり公共空地	67.4㎡/人	
・公共空地内容 (*指定避難所)		
名称	面積	
1. 県立富士見高校*	42,443.5㎡	
2. 東中学校*	24,128.0㎡	
3. 南畑小学校*	14,219.1㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 富士見養護学校*	11,777.0㎡	
6. 上南畑神社*	1,435.1㎡	
7. 南畑公民館*	2,809.5㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	13本
・1消火栓あたり世帯数	25.2世帯/本
・消防水利貯水施設数	11 (7) か所 () 内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	富士見市消防団第5分団

5. 危険物指標

・給油取扱所	4か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	2か所
・地下タンク貯蔵所	2か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(缶18号)	38棟	2棟	か所
平成 3年 9月(缶18号)	76棟	3棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)	0件		
・火災出火件数 (年 ~ 年)	0件		
・1923関東大地震被害			
家屋全壊	79戸		
家屋半壊	53戸		
被害率	7.5%		

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	1か所	東入間警察署 南畑駐在所
水防施設 その他の施設	4か所	砂川樋管 内川袋樋管 本河岸樋管 水越第1樋管
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

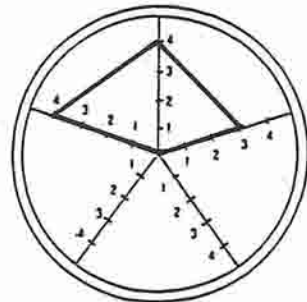
・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	1ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	3ランク
・木造建物出火危険度	0ランク
・木造建物延焼危険度	0ランク

地盤	地盤の地震動危険度	4ランク
危険度	液状化危険度	4ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、10～30mの沖積層の軟弱地盤のため、小高い所（自然堤防）にある集落で震度6（-）（烈震の弱い方）、水田地帯（氾濫平野）で震度6（+）（烈震の強い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	灌漑用水路からの溢水。	1. 水防能力	新河岸川沿いに砂川樋管、内川袋樋管、本河岸樋管が設置されている。また、小字善福内の灌漑用水路に水越第1樋管が設置されている。
2. 外水災害	新河岸川の越流。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件が悪いため木造建物の倒壊に注意を要する。	3. 消防能力	消火栓、消防水利貯水施設は十分と思われる。
4. 出火危険	出火の危険性は低いとみてよい。	4. 防火能力	集落の木造家屋の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が100%と高いため延焼の危険性は無い。	5. 避難収容力	東中学校、上南畑神社のほか、養護学校、南畑小学校、県立富士見高等学校が指定避難所になっており、収容力は十分である。
6. その他の災害	地盤条件が悪いため水田地帯で液状化による被害が予想される。		

11. 解決の方向性

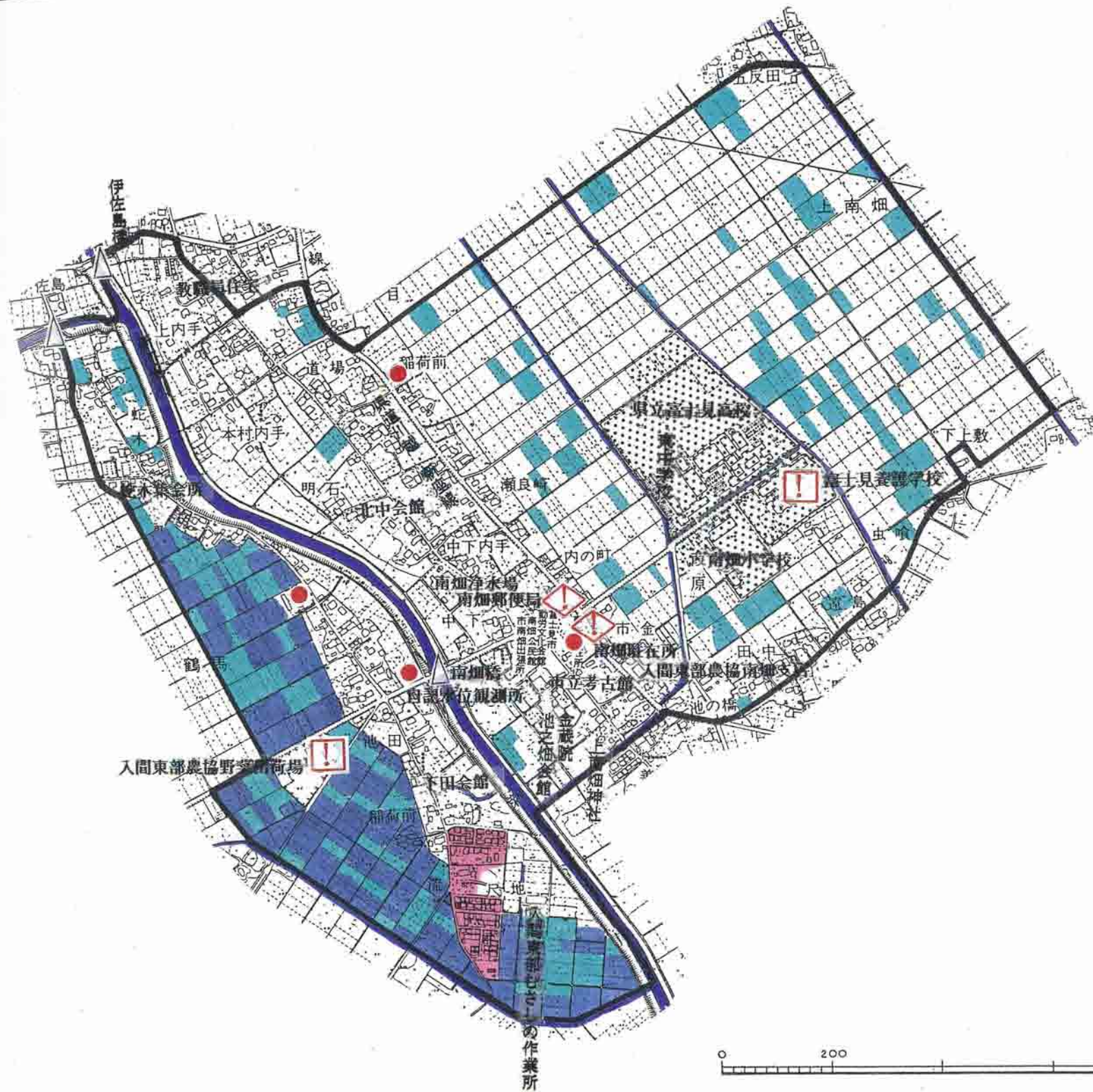
内水災害については、灌漑用水路からの溢水を防止するために、主要な灌漑用水路に排水ポンプ場を設け、災害を予防する必要がある。

地震災害の危険性は、液状化が予想される水田地帯で大きい。水田以外の用途で使用している建物は、建物のまわりの地中に連続壁や矢板などを設けて、液状化対策が望まれる。

避難可能な道路沿いにある自動販売機の転倒、ブロック塀の倒壊防止の対策指導を行い、災害時にこれら転倒物、倒壊物による道路の狭隘化を予防することが必要である。

※ 想定震度 6（+）（烈震（強））

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例

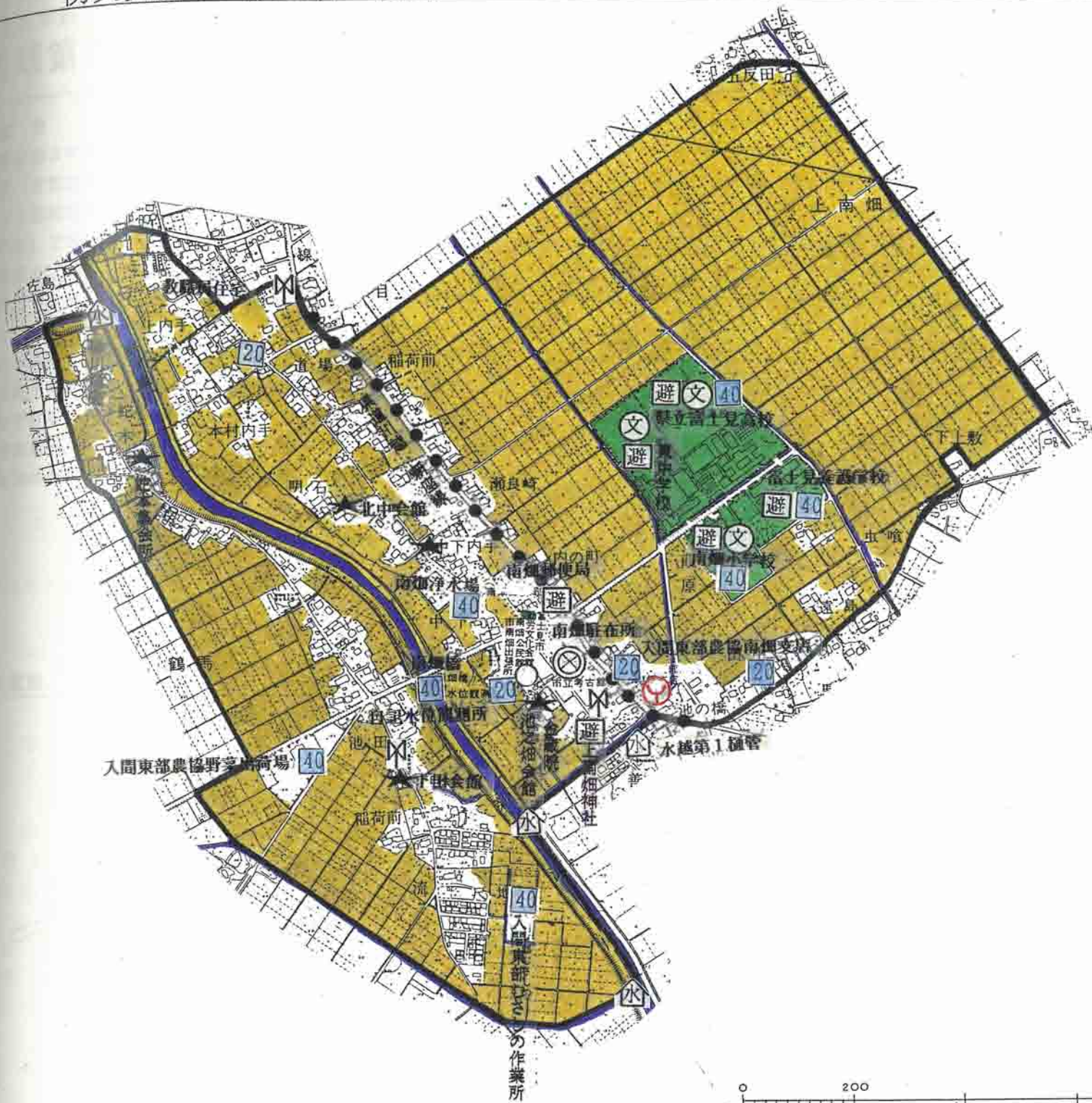
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充填所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
□	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)

■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑